平成 18 年度

学位（博士）の授与に係る論文内容の要旨及び論文審査結果の要旨

（平成 18 年 9 月授与分）

北九州市立大学大学院
社会システム研究科

目　　次

学位番号	学位被授与者氏名	論文題目	頁
甲第１８号	謝　億榮	「台中結婚」と台湾アイデンティティ 　―中国人配偶者が持ち込む中華アイデンティティとの確執―	1

学位被授与者氏名	謝　億榮（シェ　イロン）
本籍	台湾
学位の名称	博士（学術）
学位番号	甲第 18 号
学位授与年月日	平成 18 年 9 月 28 日
学位授与の要件	学位規則（昭和 28 年 4 月 1 日文部省令第 9 号）第 4 条第 1 項該当
論文題目	「台中結婚」と台湾アイデンティティ ―中国人配偶者が持ち込む中華アイデンティティとの確執―
論文題目（英訳または和訳）	Taiwanese-Chinese international marriages and Taiwanese identity – Discord with Chinese spouses' Chinese identity
論文審査委員	論文審査委員会委員主査： 北九州市立大学大学院社会システム研究科教授　法学博士　横山　宏章 同審査委員： 北九州市立大学大学院法学部教授　博士（法学）　田村　慶子 同審査委員： 国際教養大学学長　社会学博士　中嶋　嶺雄
論文審査機関	北九州市立大学大学院社会システム研究科
審査の方法	北九州市立大学学位規程（平成 17 年 4 月 1 日大学規程第 96 号）第 10 条各号の規定に基づく学位授与判定による
論文内容の要旨	近年、台中間の経済的交流が進むにつれ、中国人の妻（大陸新娘）が台湾人の夫に嫁ぐ「台中結婚」が増大し、アイデンティティをめぐる深刻な政治的摩擦が発生してきた。台湾から見れば、伝統的な中華アイデンティティをもった中国人妻（ここでは客観的用語として「中国人配偶者」を使用している）が増えることは、台湾アイデンティティの形成に影響をもたらす危機感が強い。国際結婚という個人的行為が、実は政治的な意味合いを深めている。 従来の台中結婚の研究は社会学的分析であったが、本研究はこうした政治的背景を踏まえ、台中結婚を政治学的な観点から分析したものである。 第一章では、台湾アイデンティティと中華アイデンティティの相剋を論じている。まず台湾の民主化が生み出した台湾アイデンティティ形成の政治過程を明らかにしている。そして台湾アイデンティティの特徴を「癒し型、対抗型、屈折型アイデンティティ」と規定した。台湾はもともと中国から流れ込んだ国民党（外省人）と従来の台湾人（本省人）との対立、そして少数の先住民族と圧倒的な漢民族との矛盾が存在したが、民主化を実現することで、台湾人弾圧についての国民党の謝罪、エスニック・リバイバルといわれる少数族群の自己主張が現れ、対立をこえた多元文化の共存を希求する「癒しの政治」が新たな台湾アイデンティティの特徴を形成している。また同時に一元的支配を希求する中華アイデンティティに対抗する性格も強い。しかし、同時に中国の圧倒的な存在感が高まるにつれ、中華アイデンティティに親近感を抱く屈折した心理的葛藤も見られる。 第二章では、台中結婚を国際人口移動の脈絡から分析し、他国からの結婚移民として捉え、国際結婚の一形態と規定している。だが中国人配偶者の増大は、台湾へ中華アイデンティティを持ち込むこととなり、それが政治的摩擦を引き起こす。なぜなら在留資格を獲得した中国人配偶者は、総統選挙などの政治参与が可能となるからである。この結果、在留資格付与条件をめぐ

	る紛争、また選挙による中国人配偶者獲得の政治的摩擦が派生している。ここでは最近の選挙活動、政治的権利を求めるデモなどを紹介し、こうした台中結婚の政治化現象を明らかにしている。 第三章では、自ら実施した面接調査の方法で、台湾に嫁いだ 21 組の中国人配偶者の中華アイデンティティを調べ、その結果を分析している。分析対象が限られているため、普遍化はできないが、中国で形成された中華アイデンティティが強い傾向がはっきりした。中国との交流強化（「小三通」から「大三通」へ）から、中台の統一を求めるものの、その志向は国家的意識というよりは、個人的な利便性が強まる利点を強調する極めて私利的契機が濃厚であることを明らかにしている。一方、台湾で生活する以上、台湾アイデンティティとの共存も求められ、アイデンティティをめぐる葛藤は単純ではない。だが独立志向が強い民進党や独立を危惧する国民党も含む複数政党が競合する多元的選挙体制、先住民族との共存を目指す多元文化主義を支える独自な台湾アイデンティティが、東アジアで台頭する中華アイデンティティに埋没するか否か、それは台湾が進めてきた民主化の帰趨にかかっている。 補論では、台湾と中国の婚姻法の違いを明らかにしている。
論文審査結果の要旨	台湾における権威主義的体制からの離脱と民主化は、革命やクーデターなどのドラマチックな激動を経ずに達成された。中国の国連復帰にともなう国際的孤立という危機に直面した台湾では、中国国民党の一党独裁体制（党国体制）のもとで民主化が模索され、徐々に独裁的党国体制が瓦解して複数政党化が進み、ついに総統選挙によって国民党に対抗する民進党が政権を奪取し、合法的な政権交代が実現された。このような平和的社会変動は稀有なケースであり、学問的にも多くの分析がなされてきている。 同時に台湾の社会変動は、同じような党国体制が続く中国の共産党独裁体制とは異なった台湾独自の道（独立した国民国家建設）を歩もうとするものであり、政治的には民進党を中心に台湾化、すなわち独自な台湾アイデンティティの形成というナショナリズムを生み出した。こうして台湾との統一（両岸の統一）を目指す中国に対抗する台湾独立志向を強めることになった。いわば台湾アイデンティティは伝統的な大中華世界を再建しようとする中華アイデンティティに対抗する新たな自立志向である。だからこそ、中国は台湾の独立を阻止し、大中華の世界に台湾を閉じ込めようとする政治的、軍事的圧力を加えた。その圧力のもと、台湾アイデンティティは脅威と危機に直面している。 こうした台湾と中国の緊張した関係を反映して、台湾の画期的な民主化過程を政治的に検証する多くの研究が進められてきた。その研究動向の中にあって、本論文は極めてユニークな分析である。台湾アイデンティティの形成と危機を、「台中結婚」という一見非政治的現象を通しながら、実は極めて政治的意味合いを有することを明らかにしたからである。「台中結婚」の問題に本格的に取り組んだ論文として、ほとんど類を見ないものであり、内容的にも十分に掘り下げられている。 中国の「改革・開放」政策と台湾の「民主化」政策、及び台湾と中国の経済的相互依存関係の出現で、中国人の女性が台湾に嫁ぐ「台中結婚」が増大した。台湾でも進められていた従来の「台中結婚」についての研究は、その多くが社会学的アプローチであったが、本論文はそれを政治学的な問題とし

て取り上げた。そこに本研究のユニークさと意義がある。なぜなら、中国大陸から嫁いで来た中国人妻（中国人配偶者）の多くは、当然ながら伝統的な中華アイデンティティを持ち合わせ、それが新たに形成されてきた台湾アイデンティティを突き崩す可能性をはらんでいるからである。すなわち台湾で選挙権を得た中国人配偶者は、投票という行為を通して台湾アイデンティティに影響を与えることができる。

台湾アイデンティティを守り育てようとする側から見れば、それは危機であり、いかにしてそうした危機に対処するかということが求められる。その政治的な対立は、在留資格の取得期間をめぐる争いとして現れてきている。実際、中国人配偶者を動員した在留資格の取得期間の短縮を求める政治的なデモも現れ、選挙活動において中国人配偶者を政治的に利用し始めている。

こうした問題意識のもと、本論文は、先ず台湾の政治的民主化過程と台湾アイデンティティの形成過程を分析し、次いで本論文の主要な観点となる「『台中結婚』は国際結婚である」と位置づけ、中国の移民問題（人口の国際移動）の中から、東南アジアからの国際結婚と比較している。にもかかわらず、結果的には中国からの移民としての国際結婚が台湾アイデンティティとの確執を生み出す政治的意味を問い直している。そのため、中国人配偶者の政治活動への参与をとりあげ、その報道について検証している。

本論文のユニークさのもう一つの点は、「台中結婚」が単なる国際移動にとどまらず、こうした複雑な政治問題、アイデンティティの衝突に発展することを検証するため、台湾に住む「台中結婚」の当事者に面接調査を実施し、中国人配偶者の台湾移住の動機と中華アイデンティティについて具体的に調べたことである。21 組という限られたサンプルであるが、一人ひとり、丁寧な面接調査を行い、そこから詳細な現実を引き出すことに成功している。その結果、中国人配偶者は、台湾で生活しながらも、中華アイデンティティによる統一志向が強いことが立証されているが、同時にそれは政治的意味合いよりも個人的な利便性を求める結果として統一志向が強いことも指摘されている。

問題点も多い。台湾アイデンティティが、台頭する中国の圧力に対抗する政治的な台湾独立志向によって形成された新たな、それゆえ若い形成途上のアイデンティティであるがゆえに、その概念規定がまだ十分でないことが指摘できる。E.Erikson に代表されるアイデンティティ理論についての検討が必要であろう。むしろここでは台湾アイデンティティを「台湾人意識」、中華アイデンティティを「中国人意識」と置き換えた方が分かりやすい。またアイデンティティは変容していくが、台湾での形成、発展、変容過程の論述が十分でなく、将来は中華アイデンティティに「埋没」させられるのか、あるいは「溶解」するのか、逆に中華アイデンティティの方が台湾社会の中に「埋没」「溶解」させられていくのか。その帰趨は、台湾で生まれ育つ中国人配偶者の二世の意識形成によって左右されることとなる。こうした点をもう少し掘り下げてもらいたかった。

また台中対立の枠組みの中で、「台中結婚」がもたらす重要性がどれだけの意味と意義を持つかが十分には論証されていないこと。そして、その意味と意義を論理的に明らかにするだけのデータが十分に揃っていないということも指摘できる。

だが、先行研究が少ない中、できるかぎりのデータを活用しながら、まだ

	誰も挑戦していないテーマに取り組んだ意義は大きい。今後も増え続けることがはっきりしている「台中結婚」が、台湾社会の変動に影響を与えることは明らかである。また「台中結婚」が台湾アイデンティティにとって脅威であるとしても、中国人配偶者を排除、蔑視することは、人権重視を進める台湾民主主義にとってマイナスであり、まさに「民主」と「独立」が抱える一つのジレンマとなっている。この視点も持ち合わせている本論文は、様々な意味で先駆的な研究となっている。 　平成 18 年 7 月 24 日に、北九州市立大学北方キャンパス都市政策研究所会議室において、審査委員全員出席のもとで最終試験を実施して学力を確認し、論文の説明を受け、当該論文が博士（学術）として十分な内容であると判定した。

平成 18 年度学位（博士）の授与に係る論文内容の要旨及び論文審査結果の要旨　第 4 号　（平成 18 年 9 月授与分）

発行日　2006 年 10 月

編集・発行　北九州市立大学　教務課

〒802-8577
北九州市小倉南区北方四丁目２番１号
電話 093-964-4021

（この冊子は再生紙を使用しています）